

# 投稿の手引き

## 1. 原稿の体裁

紀要委員会に提出する原稿は、未発表で総説、研究論文、研究ノートならびに資料とする。提出物は、パソコンで作成したものをプリントアウト（表紙、本文、図表、図表説明、引用文献、英文要旨）したもの3部と電子媒体である。電子媒体は eiyo@nisikyu-u.ac.jp まで送信する。邦文原稿はA4版の白紙を縦置きにして、横書き印字し、平成明朝体あるいはMS明朝体、10.5ポイント、1ページあたり35文字×37行、上下左右2.5cm以上の余白をとることを標準とする。欧文原稿のフォントは、Centuryとし、1ページあたりの文字数、行数は和文原稿と同様とする。

以下の説明文の、前の□は、著者のチェック用にご利用下さい。

## 2. 論文の構成

2.1 投稿論文は次の1)～6)（欧文論文の場合は5)）まで揃えて提出する。

〈邦文論文〉

- 1) 論文投稿カード（本学部指定の用紙）
- 2) 表紙
- 3) 本文
- 4) 引用文献
- 5) 表・図
- 6) 英語で書かれた表題、著者名、研究の行われた機関名、英文要旨、キーワード（新しいページに作成する）

〈欧文論文〉

- 1) 論文投稿カード（本学部指定の用紙）
- 2) 表紙
- 3) 本文
- 4) 引用文献
- 5) 表・図

### 2.2 表紙（邦文2）、欧文2）

本手引き最後のページに例が挙げてあります。

2.2.1 原稿には指定の表紙をつける。表紙には、表題、著者名、研究の行われた機関名、キーワードを書く。

2.2.2 表題は内容を簡潔に表すものとし、継続研究の場合は副題をつける。副題は、中傍線で囲む。

（例）  
糖尿病患者の自己管理  
—非糖尿病患者との比較—

2.2.3 連名で投稿する場合、コンマ（、）で区切る。所属機関の異なるものについては、右肩に数字をつけ説明をつける。

（例）深田昌也、大口洋二、東文夫<sup>1</sup>、入江英明<sup>2</sup>  
（西九州大学健康栄養学部健康栄養学科、<sup>1</sup>小崎幼稚園<sup>1</sup>、<sup>2</sup>神崎短期大学<sup>2</sup>）

2.2.4 欧文の表題および著者名の書体は次のとおりとする。（邦文6にも適応）

表題では冠詞、前置詞および接続語以外の頭文字は大文字とする。副題では小文字体とする。著者名は頭文字のみ大文字とする。

（例）Mitsuo Nohmi, Kenji Kuba, Shao-Ying Hua

### 2.3 本文

2.3.1 表紙の次のページを本文第1ページ目とし、各ページにページ番号を付すこと。

2.3.2 和文原稿は、要旨（要約）、緒言、方法、結果、考察、謝辞、参考文献などの見出しをつけて書く。欧文原稿でも同様とする。

2.3.3 本文中の大見出し、中見出し、小見出しは point system とし、1、2、3、…、1.1、1.2、1.3、…、1.1.1、1.1.2、1.1.3、…など見出しの番号を付ける。大見出し、中見出しの前は一行あける。ただし、要旨は見出しの番号をつける必要はない。

2.3.4 文章はひらがな書き、平易で簡素な文章体（…である）とし、常用漢字と現代仮名遣いを用いる。句読点には（、。）を使用する。英数字は半角を用いる。

□2.3.5 文献の書き方は下記の規定に従う。著者個人の好みや、所属学会の学会誌に採用されているからという理由などで、本規定にあわない書き方をしないよう留意すること。

## 2.4 表・図

- 2.4.1 表と図は最小限にとどめること。同じ内容のものを図と表の両方で表すことはやめ、いずれか一方にする。図と表にはすべて1枚ずつに著者名（共著の場合は筆頭者の名前とその他何名）を必ず書くこと。
- 2.4.2 付表はできるだけ簡素化し、2ページにまたがるものや折り込みを必要とするものはできるだけ避ける。
- 2.4.3 付図は黒インクで鮮明に製図し、直ちに印刷にまわし得るまでに完成しておくこと。付図の説明は、別紙にまとめて書いて原稿末尾に添付する。
- 2.4.4 表と図の挿入場所を、本文中の右余白に明記すること。

## 2.5 引用文献の書き方

- 引用文献は本文中その項目の右肩に<sup>1)</sup>、<sup>2-4)</sup>または<sup>2-4,6,8-10)</sup>のように通し番号をつけ本文の最後にまとめて書く。文献は直接参照したものを引用すること。
- 引用文献には、本文中での引用順に番号を付して記載する。
- 文献は、著者名：雑誌名（書名）、巻、開始ページ、（発行年）の順に記し、欧文雑誌名はイタリック、巻はボールドとする。
- 著者名は全員記載し、読点（、）で区切る。“……ら”、“……et al.”とはしない。
- 著者の姓名を漢字、カタカナ、ひらがなで表すときは、姓、名前の順に記し省略しない。アルファベットで表すときは名前の頭文字、姓の順に記す。
- 文献名の略記法は当該雑誌それぞれにきめられた省略名に従うこと。指定されていない場合は略記せずフルネームで書く。

例)

- 1) 右田輝子、山田華子：分析化学、**30**、81（1981）
- 2) J. W. McLaren, S. S. Berman, V. J. Boyko, D. S. Russel : *Anal. Chem.*, **53**, 1802 (1981)

○単行本を引用するとき、引用の様式は次のとおりとする。

著者：“単行本の名称”、第○巻、p. 開始ページ（発行年）、（発行者、国外の発行者については所在都市名）

例)

- 3) 阿部弘：“ケモメトリックス”、p. 69（1997）、（丸善）
  - 4) B. Magyer：“Guide-Line to Planning Atomic Spectrometric Analysis”, p.63 (1982) (Elsevier Sci. Pub., Amsterdam)
- もし引用部分の著者のほかにその単行本のタイトルに記載されている編著者がいるときは、その編著者名も記載する。引用される単行本が翻訳書のときは翻訳者名、書名、引用ページ、発行年および発行者名を記し、セミコロンで続けて（ ）内に原著者名、原書名、編集者があればその氏名、発行年、原発行者名および原発行者の都市名を記入する。

例)

- 5) 青村一夫：“新版水の分析”、日本分析化学会北海道支部編、p. 179（1980）、（南江堂）
- 6) R. M. Measures：“Analytical Laser Spectroscopy” Edited by N. Omenetto, p.362 (1979), (J. Wiley and Sons. Inc., New York).

○単行本全体を引用する場合の様式は次のとおりとする。

編集者：“単行本の名称”、第○巻（発行年）、（発行者、国外の発行者については所在都市名）

例)

- 7) 日本分析化学会北海道支部編：“水の分析”、第4版、（1994）、（化学同人）。
- 8) N. Omenetto (Ed.): “Analytical Laser Spectroscopy” (1979), (J. Wiley & Sons, New York).

## □2.6 英文要旨

英文要旨は、論文の要点を明確に伝えるように書くこと。要旨内は改行しない。図、表、文献などを引用しない。字数は、100～300単語程度とする。

なお、英文は、できうる限り native speaker の専門家による校閲を受けることが望ましい。日本語から英語に変換

できる翻訳サイトやソフトを使用してはいけません。

(平成13年7月16日改正)

(平成13年7月27日訂正)

(平成19年10月4日改正)

(平成20年12月17日一部改正)

(平成26年10月23日一部改正)

(平成27年2月25日一部改正)